

清里区将来プランの概要（フェイスページ・フレーム）

【10年後（2032年）の地域が目指す姿】

- 1 子供たちが農業に触れる機会を増やし、清里の豊かな資源に魅力を感じて、進学等で地域外に出ても戻ってきて就農を目指したくなる地域（目標：毎年3人以上就農）
- 2 スマート農業技術やデジタル化等により、若い人でも取り組み易い農業（きつくない・カッコイイ）
- 3 若い人や家族・子供たちが集い、清里の文化を楽しめる拠点施設の整備

【基幹的農業従事者等の定住目標】

<地域人口> 毎年の5世帯の移住世帯を確保⇒（30年後）子供人口を現在の90%以上
<農業就業人口> 毎年3人が就農 ⇒現在の90%以上

○ 地域人口

- ・30代前半子連夫婦（3人）：3世帯
- ・20代前半夫婦（2名）：1.5世帯
- ・60代前半夫婦（2名）：0.5世帯

○ 基幹的農業従事者数

- ・20代：男性1人、女性0.5人
- ・30代：男性0.5人、女性0.5人
- ・60代：男性0.5人

【目指す姿に向けた具体的な取組とスケジュール】

○ 重点的に取り組む項目

- 1 農のひろば
(農育連携)
(取組主体：区内農業者)
- 2 山のひろば
(坊ヶ池周辺等の地域資源を活用)
(取組主体：櫛池農業振興会)
- 3 里の広場
(就労場所の確保や子育て支援)
(取組主体：「きよさと未来予想図」をつくる会)
- 4 住むところ
(空き家等を活用した住の確保)
(取組主体：「きよさと未来予想図」をつくる会、上越市)

○ 具体的な取組スケジュール

重点取組	具体的な取組内容		
	短期的（1～3年）	中期的（3～5年）	長期的（5～10年）
1 農のひろば 農育連携	スマート農業導入等による農業のイメージ改善	教育機関との連携により、子供たちが農業に触れる機会を増やす	Uターン希望者に対する農業法人による就農相談と研修受入れ
2 山のひろば 坊ヶ池周辺等の地域資源を活用	ビュー京ヶ岳など既存施設及び周辺施設の整備と活用方法の検討	多世代交流拠点として活用する清里区外の方や地域住民が集まるイベントを定期開催する	区外の方が清里区に来訪する目的とするワーキングスペースとして活用する
3 里の広場 就労場所の確保や子育て支援	清里区を飛び出して活躍する若年世代がUターンを検討したり、清里区外の人材へ来訪を働きかけるように地域住民（特に若年世代）の郷土愛を醸成することを目的に、以下の計画に取り組む。 ①地域交流会等の地域活動の充実 ②地域を挙げた子育て支援体制の構築 ③農業の発展による雇用の確保		
4 住むところ 空き家等を活用した住の確保			
空きや状況の調査や活用方法等、市の関係部局等と連携し、検討する			

【2032年の地元関係図】

